カスタム レポートの生成

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/reporting/concept_unified_manager_reporting.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

カスタム レポートの生成 1
Unified Managerのレポート 1
Active IQ Unified Manager レポートについて学ぶ 1
レポートを生成するためのアクセス ポイント 1
Active IQ Unified Manager のレポートについて 3
Active IQ Unified Manager におけるビューとレポートの関係を理解する 3
Active IQ Unified Manager のレポートの種類について説明します 4
Active IQ Unified Manager のレポートの制限事項について 5
レポートを操作する 6
Active IQ Unified Manager のレポートワークフローを理解する 6
Active IQ Unified Manager でのレポート作成の開始 7
Active IQ Unified Manager でスケジュールされたレポートを検索する 10
レポートをカスタマイズする 10
Active IQ Unified Manager でレポートをダウンロードする 14
レポートのスケジュール設定 14
Active IQ Unified Manager でレポートをスケジュールする 14
レポートをスケジュールする 14
レポートのスケジュールを管理する 17
サンプルのカスタム レポート 19
Active IQ Unified Manager のサンプルカスタムレポートについて 19
クラスタストレージレポートをカスタマイズする 20
アグリゲート容量レポートをカスタマイズする 23
ボリューム容量レポートをカスタマイズする 25
Qtreeの容量レポートをカスタマイズする 28
NFS共有レポートをカスタマイズする 29
ストレージVMレポートをカスタマイズする 30
ボリューム関係レポートをカスタマイズする 32
ボリュームパフォーマンスレポートをカスタマイズする 36
Microsoft Excelのサンプル レポート 37
Active IQ Unified Manager で Microsoft Excel のサンプルレポートを理解する 37
Active IQ Unified Manager でアグリゲート容量のテーブルとグラフを表示するレポートを作成する 37
Active IQ Unified Manager でアグリゲートの合計容量と使用可能な容量のグラフを表示する 40
Active IQ Unified Manager で利用可能なボリューム容量チャートを表示するレポートを作成する 43
Active IQ Unified Manager で使用可能な IOPS
が最も多いアグリゲートを表示するレポートを作成する 46

カスタム レポートの生成

Unified Managerのレポート

Active IQ Unified Manager レポートについて学ぶ

Active IQ Unified Manager （以前はOnCommand Unified Manager）は、ONTAPストレージシステムのレポートを表示、カスタマイズ、ダウンロード、およびスケジュール設定する機能を提供します。レポートには、ストレージ システムの容量、健全性、パフォーマンス、セキュリティ、保護関係に関する詳細を表示できます。

Active IQ Unified Manager 9.6で導入された新しい Unified Manager のレポートおよびスケジュール機能は、Unified Manager バージョン9.5で廃止された以前のレポートエンジンに代わるものです。

ネットワークをさまざまな側面（ビュー）から確認することで、容量、健全性、パフォーマンス、セキュリティ、保護データに関する実用的な情報を得ることができます。このビューは、列の表示 / 非表示の切り替えと並べ替え、データのフィルタリングとソート、結果の検索によってカスタマイズできます。カスタム ビューは、再利用できるように保存したり、レポートとしてダウンロードしたりできるほか、定期レポートとしてスケジュール設定してEメールで配布することができます。

Microsoft® Excel形式でビューをダウンロードしてカスタマイズできます。複雑な並べ替え、フィルタ、ピボット テーブル、グラフなど、Excelの高度な機能を使用できます。カスタマイズしたExcelレポートに問題がなければ、Excelファイルをアップロードして、レポートの定期的な生成時や共有時に使用できます。

Unified Managerでは、ユーザ インターフェイスからレポートを生成する以外にも、以下の方法を使用して健全性、セキュリティ、パフォーマンスのデータを抽出できます。

- Open Database Connectivity（ODBC）およびODBCのツールを使用してデータベースに直接アクセスし、クラスタの情報を取得する。
- Unified Manager REST APIを実行して、確認したい情報を取得します。

このリリース以降のActive IQ Unified Managerでは、レポート機能が次のように拡張されています。

- 設定したスケジュールに従ってレポートのEメールが送信されます。オンデマンド レポートを生成した場合もEメールが送信されます。
- レポートのファイル名とメタデータには、レポートの生成元のホスト名が含まれます。そのため、ファイル名が変更されてもレポートの生成元のホスト名を特定できます。

レポートを生成するためのアクセス ポイント

Active IQ Unified Manager でレポート機能にアクセスする **3** つの方法を紹介します

Unified Managerでは、UI、MySQLデータベースクエリ、およびREST APIを使用して、クラスタに関する情報を収集し、レポートを作成できます。

ここでは、Unified ManagerのUIを使用したレポート作成とスケジュール設定について説明します。

Unified Managerが提供するレポート機能にアクセスするには、次の3つの方法があります。

- UIのインベントリ ページからデータを直接抽出する。
- Open Database Connectivity（ODBC）およびODBCのツールを使用して、使用可能なすべてのオブジェクトにアクセスする。
- Unified Manager REST APIを実行して、確認したい情報を取得します。

ここでは、Unified ManagerのUIを使用したレポート作成とスケジュール設定について説明します。

Active IQ Unified Manager でカスタムレポート用のデータベースにアクセスする

Unified Managerは、監視対象のクラスターからのデータを保存するためにMySQLデータベースを使用します。データはMySQLデータベース内の様々なスキーマに永続的に保存されます。

次のデータベースからすべてのテーブルのデータを使用できます。

データベース	説明
netapp_model	ONTAPコントローラのオブジェクトに関するデータ。
netapp_model_view	ONTAPコントローラのオブジェクトに関するデータ。レポート ツールでの使用に適しています。
netapp_performance	クラスタ固有のパフォーマンス カウンタ。
ocum	Unified Manager アプリケーションのデータおよび情報は、UI のフィルタリング、ソート、および一部の派生フィールドの計算をサポートします。
ocum_report	インベントリの構成と容量関連の情報のデータ。
ocum_report_birt	インベントリ設定と容量関連データのビュー。レポート ツールでの使用に適しています。
opm	パフォーマンスの設定としきい値の情報。
scalemonitor	Unified Managerアプリケーションの健全性およびパフォーマンスの問題に関するデータ。
vmware_model	NetAppストレージでホストされているデータストアのVMwareオブジェクト データ。
vmware_model_view	NetAppストレージでホストされているデータストアのVMwareオブジェクト データのビュー。レポート ツールでの使用に適しています。
vmware_performance	NetAppストレージでホストされているデータストアのVMwareパフォーマンス カウンタ データ。

レポート ユーザ（レポート スキーマ ロールを持つデータベース ユーザ）は、これらのテーブル内のデータにアクセスできます。このユーザーは、Unified Manager データベースから直接、レポートやその他のデータベースビューへの読み取り専用アクセス権を持っています。このユーザーは、ユーザーデータまたはクラスタ認証情報を含むテーブルにアクセスする権限を持っていません。

REST APIを使用すると、Unified Managerによって取得された健全性、容量、パフォーマンス、およびセキュリティ情報を表示することで、クラスターの管理を支援できます。

REST APIはSwagger Webページから利用できます。Swagger WebページにアクセスしてUnified Manager REST APIドキュメントを表示したり、API呼び出しを手動で行ったりすることができます。Unified ManagerのWeb UIのメニューバーで、「ヘルプ」ボタンをクリックし、「APIドキュメント」を選択します。Unified Manager REST API の詳細については、"Active IQ Unified Manager REST APIでの作業の開始"を参照してください。

REST APIにアクセスするには、オペレータ、ストレージ管理者、アプリケーション管理者のいずれかのロールが必要です。

Active IQ Unified Manager のレポートについて

レポートにはストレージ、ネットワーク、サービス品質、および保護関係に関する詳細情報が表示されます。この情報を基に、潜在的な問題を発生前に特定して解決することができます。

ビューをカスタマイズした場合は、再利用できるように名前を付けて保存できます。カスタマイズしたビューに基づいてレポートを定期的に実行するようにスケジュール設定し、他のユーザと共有できます。また、Excel形式でビューをダウンロードし、高度なExcel機能を使用してカスタマイズしたあとでファイルをUnified Managerに再度アップロードすることもできます。カスタマイズしたビューを使用してレポートをスケジュール設定すると、アップロードしたExcelファイルを使用してレポートを作成し、共有することができます。

スケジュール設定されたレポートは、すべて[レポート スケジュール]ページから管理できます。

レポートを操作するには、アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

レポートは、カンマ区切り値（CSV）、Excel、またはPDFファイルとしてダウンロードできます。

Active IQ Unified Manager におけるビューとレポートの関係を理解する

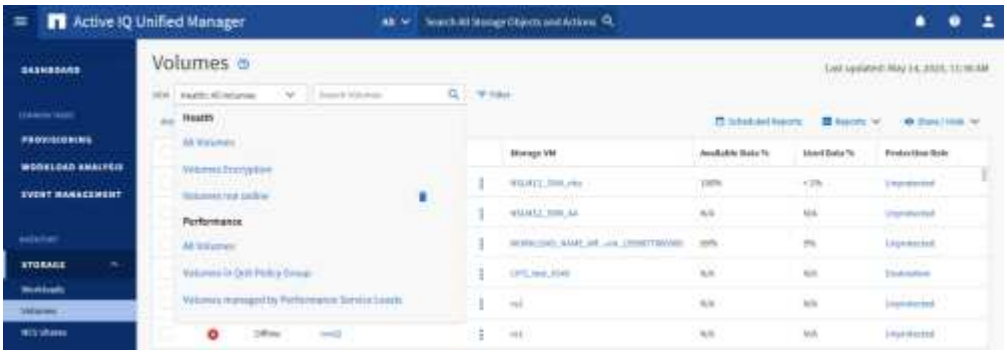
ビューおよびインベントリ ページをダウンロードまたはスケジュール設定したものがレポートです。

ビューとインベントリ ページはカスタマイズして保存し、再利用することができます。Unified Managerで表示できるほぼすべての情報を、レポートとして保存、再利用、カスタマイズ、スケジュール設定、共有できます。

[表示]ドロップダウンで削除アイコンのある項目は、自分または他のユーザが作成した既存のカスタム ビューです。アイコンのない項目は、Unified Managerのデフォルト ビューです。デフォルト ビューを変更または削除することはできません。

- リストからカスタム ビューを削除すると、そのビューを使用するExcelファイルまたはスケジュール済みレポートもすべて削除されます。

- カスタム ビューを変更した場合、そのビューを使用するレポートに変更が反映されるのは、レポート スケジュールに従って次回レポートが生成されてEメールで送信されるときです。ビューを変更する場合は、変更内容がExcelで行ったレポートのカスタマイズに対応することを確認してください。必要であれば、Excelファイルをダウンロードして必要な変更を加え、ビューに対して再度アップロードすれば、Excelファイルを更新できます。



削除アイコンが表示され、ビューやスケジュール済みレポートを変更したり削除したりできるのは、アプリケーション管理者ロールまたはストレージ管理者ロールのユーザだけです。

Active IQ Unified Manager のレポートの種類について説明します

次の表は、カスタマイズ、ダウンロード、およびスケジュール設定が可能なレポートとして使用できるビューとインベントリ ページの一覧です。

Active IQ Unified Manager レポート

Type	ストレージまたはネットワーク オブジェクト
Capacity	クラスタ アグリゲート ボリューム qtree
Health	クラスタ ノード アグリゲート Storage VM ボリューム SMB/CIFS共有 NFS 共有

Type	ストレージまたはネットワーク オブジェクト
Performance	クラスタ ノード アグリゲート Storage VM ボリューム LUN NVMeネームスペース ネットワーク インターフェイス（LIF） ポート
QoS	従来のQoSポリシー グループ アダプティブQoSポリシー グループ パフォーマンス サービス レベル ポリシー グループ
ボリュームの保護関係（［ボリューム］ページから）	すべての関係 過去1カ月の転送ステータス 過去1カ月の転送速度
セキュリティ	Storage VM クラスタ

Active IQ Unified Manager のレポートの制限事項について

新しい Active IQ Unified Manager のレポート機能には、いくつかの制限事項があります。

Unified Managerの以前のバージョンからの既存のレポート

スケジュールと受信者を編集できるのは、Unified Manager 9.5以前のリリースで作成およびインポートされた既存のレポート（.rptdesignファイル）のみです。Unified Manager 9.5以前の標準レポートをカスタマイズしたレポートは、新しいレポート ツールにインポートされません。

rptdesignファイルからインポートした既存のレポートを編集する必要がある場合は、次のいずれかの操作を実行して、インポートしたレポートを削除してください。

- 新しいビューを作成し、作成したビューからレポートをスケジュールする（推奨）
- レポート上にカーソルを置き、SQLをコピーして、外部ツールを使用してデータを抽出する

デフォルト ビューは、カスタマイズしなくてもレポートとして生成できます。カスタム レポートは、新しい

レポート機能を使用して再作成できます。

スケジュールとレポートの関係

保存したレポートごとに、受信者を任意に組み合わせて複数のスケジュールを作成できます。ただし、同じスケジュールを複数のレポートで再利用することはできません。

レポートの保護

適切な権限があるユーザであれば、誰でもレポートを編集または削除できます。保存したビューやスケジュールを、他のユーザが削除または変更できないようにする方法はありません。

イベント レポート

イベント ビューをカスタマイズしてレポートをCSV形式でダウンロードすることはできますが、イベント レポートを繰り返し生成して配信するようにスケジュール設定することはできません。

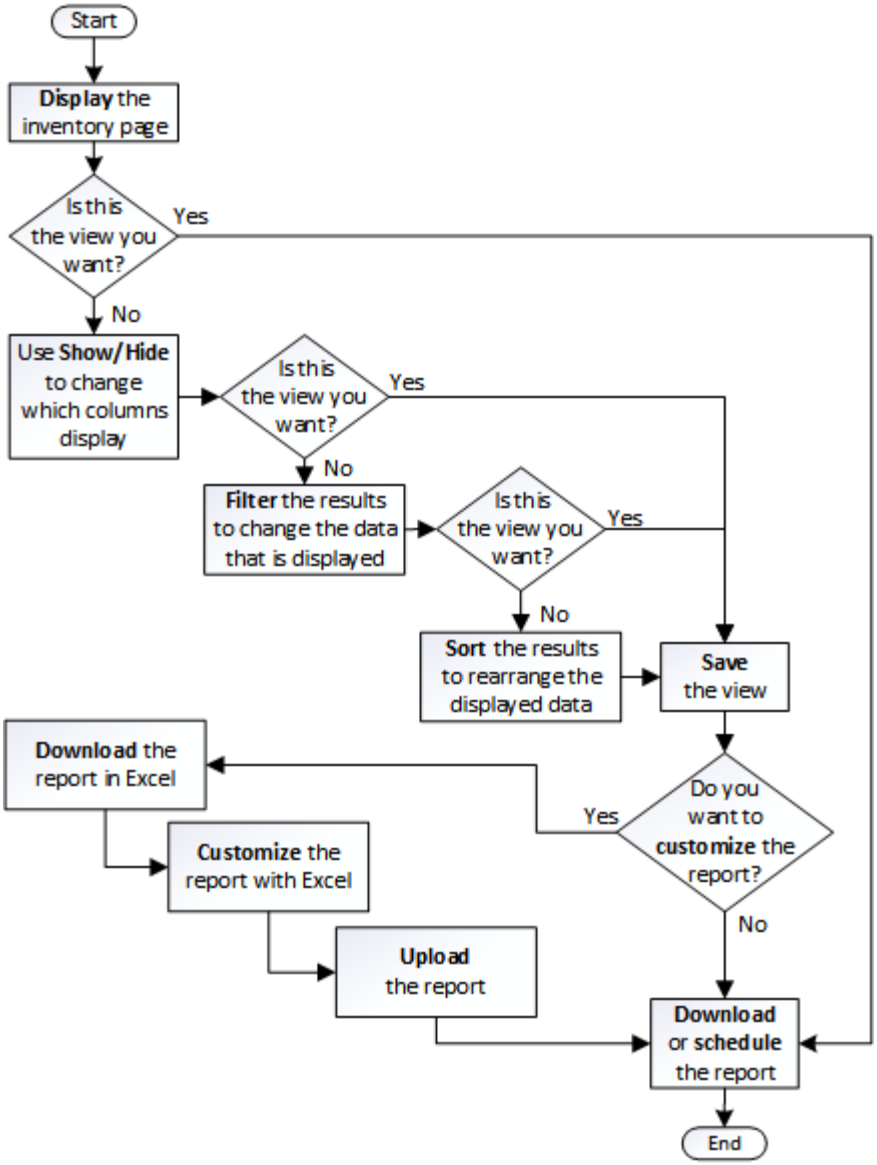
レポートの添付

レポートをEメールの本文として送信することはできません。レポートはPDF、Excel、またはCSV形式の添付ファイルとして送信されます。

レポートを操作する

Active IQ Unified Manager のレポートワークフローを理解する

以下は、レポートのワークフローに関するデシジョン ツリーです。



Active IQ Unified Manager でのレポート作成の開始

サンプルのカスタム レポートを作成して、各ビューの内容とレポートのスケジュール設定について学びます。このクイック スタートのレポートでは、アクセス頻度の低いコールド データが相当量あり、クラウド階層への移動を検討するボリュームを特定します。「パフォーマンス：全ボリューム」ビューを開き、フィルターと列を使用してビューをカスタマイズし、カスタマイズしたビューをレポートとして保存し、そのレポートを週に一度共有するようにスケジュールします。

開始する前に

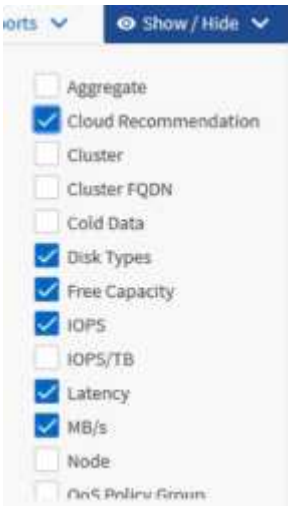
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- FabricPoolアグリゲートを設定しておく必要があります。また、それらのアグリゲート上にボリュームが必要です。

以下の手順に従って、次の操作を実行します。

- デフォルト ビューを開く
- データをフィルタおよびソートで列をカスタマイズする
- ビューを保存する
- カスタム ビューに対して生成されるようにレポートをスケジュール設定する

手順

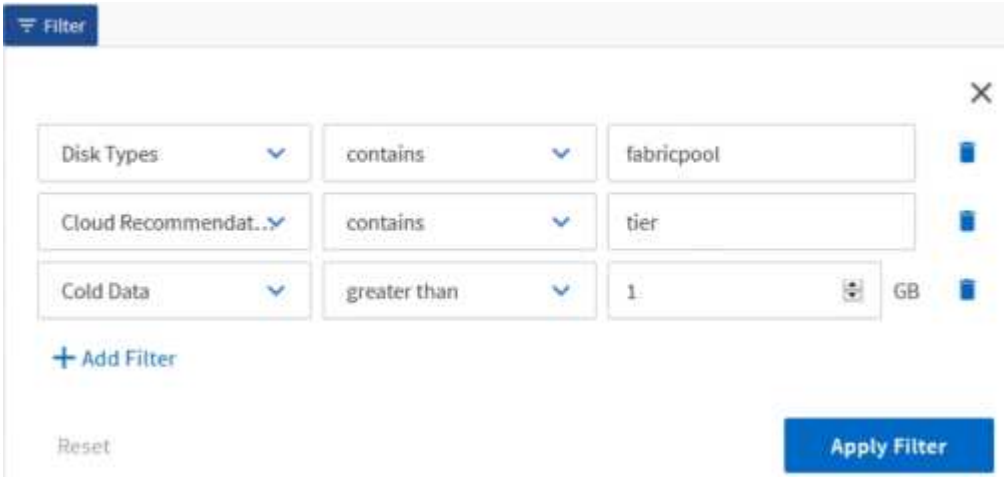
1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「パフォーマンス」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. 「表示/非表示」をクリックして、「`Disk Types`」列がビューに表示されていることを確認してください。



列を追加または削除して、レポートに必要なフィールドを含むビューを作成します。

4. 「`Disk Types`」列を「`Cloud Recommendation`」列の隣にドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックして以下の3つのフィルターを追加し、*フィルターを適用*をクリックします。

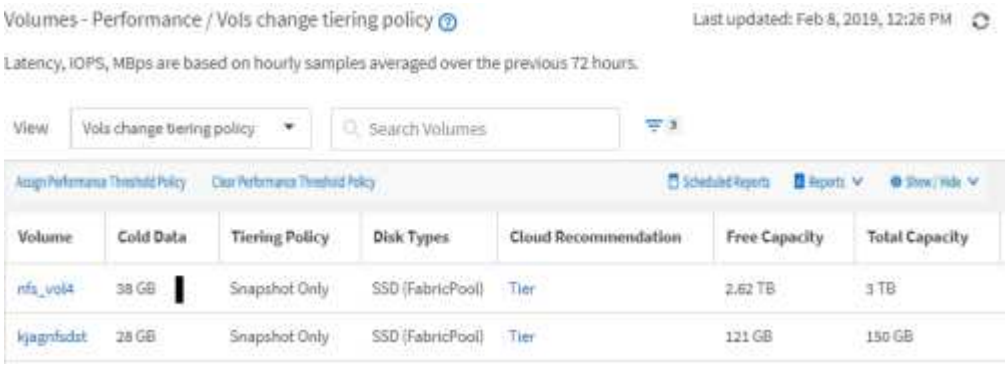
   ◦ ディスクの種類にはFabricPoolが含まれます
   ◦ クラウドに関する推奨事項に階層が含まれる
   ◦ 10 GBを超えるコールドデー



タ

各フィルタは論理積で結合され、すべての条件を満たすボリュームだけが返されます。最大5個のフィルタを追加できます。

6. [コールド データ]列の上部をクリックして結果をソートし、コールド データの量が最も多いボリュームがビューの先頭に表示されるようにします。
7. ビューがカスタマイズされている場合、ビュー名はUnsaved Viewになります。ビューには、そのビューが表示する内容を反映する名前を付けます。たとえば、「`Vols change tiering policy`」などです。完了したら、チェックマークをクリックするか、*Enter*を押して、新しい名前でビューを保存します。



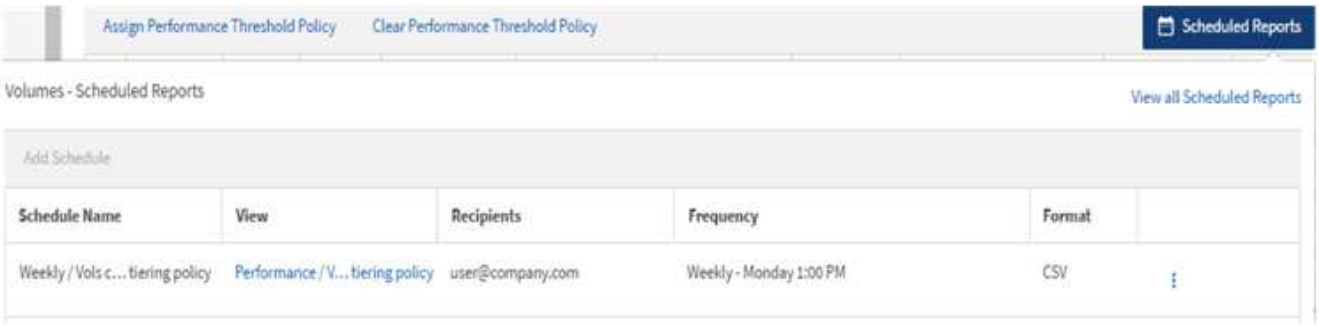
8. レポートを*CSV*、**Excel**、または*PDF*ファイルとしてダウンロードして、スケジュール設定や共有を行う前に出力結果を確認してください。

   Microsoft Excel（CSVまたはExcel）やAdobe Acrobat（PDF）などのインストールされているアプリケーションでファイルを開くか、またはファイルを保存します。

   ビューをExcelファイルとしてダウンロードすると、複雑なフィルタ、並べ替え、ピボットテーブル、グラフを使用してレポートをさらにカスタマイズできます。Excelでファイルを開いてから、高度な機能を使用してレポートをカスタマイズします。問題がなければ、Excelファイルをアップロードします。このファイルとそのカスタマイズ内容は、レポートの実行時にビューに適用されます。

   Excel を使用したレポートのカスタマイズに関する詳細については、「Microsoft Excel レポートのサンプル」を参照してください。

9. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。このリストには、対象オブジェクト（この場合はボリューム）に関連するすべてのスケジュール済みレポートが表示されます。

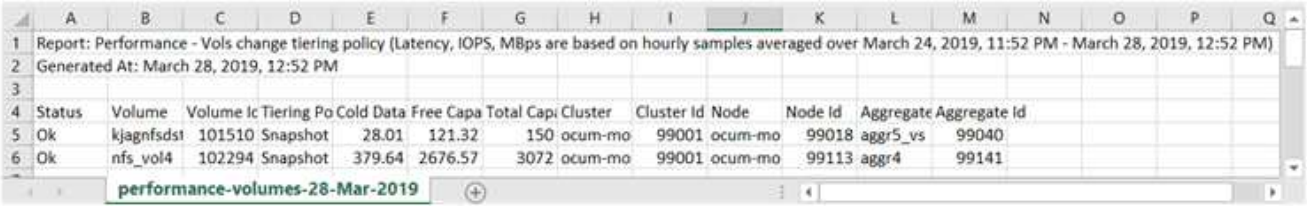


10. スケジュールを追加 をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
11. レポートの名前を入力し、他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマー

ク（）をクリックします。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

CSV形式のサンプル レポートを次に示します。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1	Report: Performance - Vols change tiering policy (Latency, IOPS, MBps are based on hourly samples averaged over March 24, 2019, 11:52 PM - March 28, 2019, 12:52 PM)																
2	Generated At: March 28, 2019, 12:52 PM																
3																	
4	Status	Volume	Volume Ic	Tiering Po	Cold Data	Free Capa	Total Capa	Cluster	Cluster Id	Node	Node Id	Aggregate	Aggregate Id				
5	Ok	kjagnfsdst	101510	Snapshot	28.01	121.32	150	ocum-mo	99001	ocum-mo	99018	aggr5_vs	99040				
6	Ok	nfs_vol4	102294	Snapshot	379.64	2676.57	3072	ocum-mo	99001	ocum-mo	99113	aggr4	99141				

performance-volumes-28-Mar-2019

PDF形式のサンプル レポートを次に示します。



Report: Performance - Vols change tiering policy (Latency, IOPS, MBps are based on hourly samples averaged over March 24, 2019, 11:51 PM - March 28, 2019, 12:51 PM)
Generated At: March 28, 2019, 12:51 PM

Status	Volume	Tiering Policy	Cold Data (GB)	Free Capacity (GB)	Total Capacity (GB)	Cluster	Node	Aggregate
Ok								
Ok								

レポートに示された結果に基づいて、ONTAP System ManagerまたはONTAP CLIを使用して、特定のボリュームの階層化ポリシーを「`auto`」または「`all`」に変更し、より多くのコールドデータをクラウド階層にオフロードすることをお勧めします。

Active IQ Unified Manager でスケジュールされたレポートを検索する

スケジュール済みレポートは、名前、ビュー名、オブジェクト タイプ、または受信者で検索できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ レポートスケジュール をクリックします。
2. 「スケジュール済みレポートの検索」テキストフィールドを使用してください。

...によるレポートを探すには	試す...
スケジュール名	レポート スケジュール名の一部を入力します。
ビュー名	レポート ビュー名の一部を入力します。デフォルト ビューとカスタム ビューがビュー リストに表示されます。
受信者	Eメール アドレスの一部を入力します。
ファイル タイプ	「PDF」、「CSV」、または「XLSX」と入力します。

3. 列見出しをクリックすると、レポートをその列（スケジュール名や形式など）の昇順または降順でソートできます。

レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でレポートをカスタマイズする

さまざまな方法でビューをカスタマイズすることで、ONTAPクラスタの管理に必要な情

報をすべて含んだレポートを作成することができます。

デフォルトのインベントリ ページまたはカスタム ビューをベースに、列の追加や削除、列の順序変更、データのフィルタリング、特定の列での昇順または降順のソートなどを行い、カスタマイズします。

Unified Manager 9.8以降では、ビューをExcel形式でダウンロードし、高度な機能を使用してカスタマイズすることもできます。完了したら、カスタマイズしたExcelファイルをアップロードします。アップロードしたビューを使用してレポートをスケジュール設定すると、カスタマイズしたExcelファイルを使用してレポートを作成し、共有することができます。

Excel を使用したレポートのカスタマイズに関する詳細については、「Microsoft Excel レポートのサンプル」を参照してください。

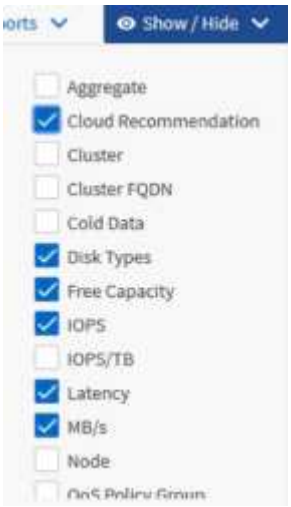
レポートを操作するには、アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

Active IQ Unified Manager でレポートの列をカスタマイズする

「表示/非表示」を使用して、レポートで使用する列を選択してください。インベントリ ページの列をドラッグして並べ替えてください。

手順

1. 「表示／非表示」をクリックすると、列を追加または削除できます。



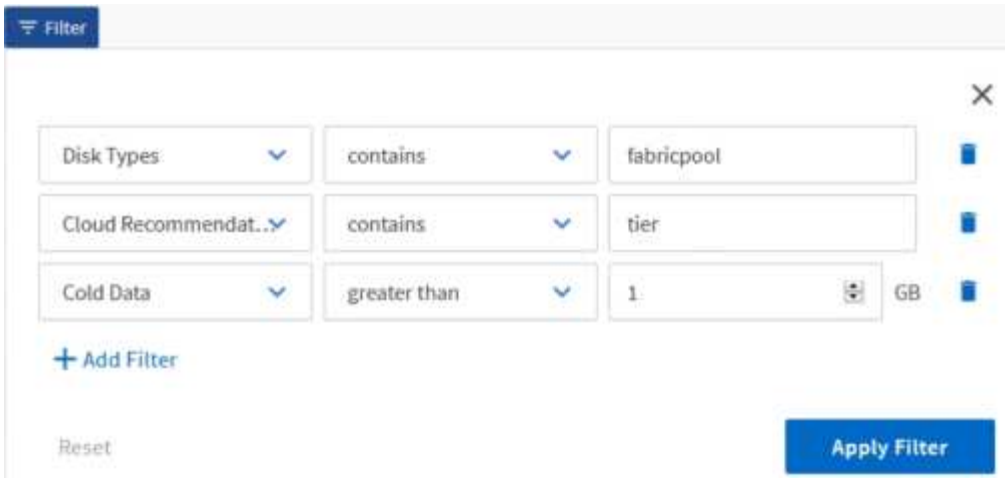
2. インベントリ ページで、列をドラッグしてレポートで必要な順序に並べ替えます。
3. ビューに名前を付けて変更を保存します。

Active IQ Unified Manager でデータをフィルタリングする

要件を満たすレポートを作成するには、データをフィルタリングします。フィルタリングすることで関心のあるデータのみを表示できます。

手順

1. フィルターアイコンをクリックしてフィルターを追加し、表示したい結果を絞り込んでから、*フィルターを適用*をクリックしてください。



2. ビューに名前を付けて変更を保存します。

Active IQ Unified Manager でデータをソートする

結果をソートするには、列をクリックし、昇順または降順を指定します。データをソートすることで、レポートに必要な情報に優先順位を付けることができます。

手順

1. 列の見出しをクリックして、最も重要な情報がビューの先頭に表示されるように結果をソートします。
2. ビューに名前を付けて変更を保存します。

Active IQ Unified Manager での検索による表示の絞り込み

目的のビューが表示されたら、検索フィールドを使用して、レポートに必要な情報に合わせて結果をさらに絞り込むことができます。

手順

1. レポートのベースとして使用するカスタム ビューまたはデフォルト ビューを開きます。
2. 検索フィールドを使用してビューに表示されるデータを絞り込みます。表示されている任意の列の部分データを入力できます。たとえば、名前に「US_East」を含むノードを検索するには、全ノードのリストを絞り込むことができます。

   検索結果はカスタム ビューに保存され、スケジュール済みレポートで使用されます。

3. ビューに名前を付けて変更を保存します。

Active IQ Unified Manager で**Excel**を使用してレポートをカスタマイズする

保存したビューをExcelワークブック形式（.xlsx）でダウンロードできます。Excelファイルを開くと、Excelの高度な機能を使用してレポートをカスタマイズできます。

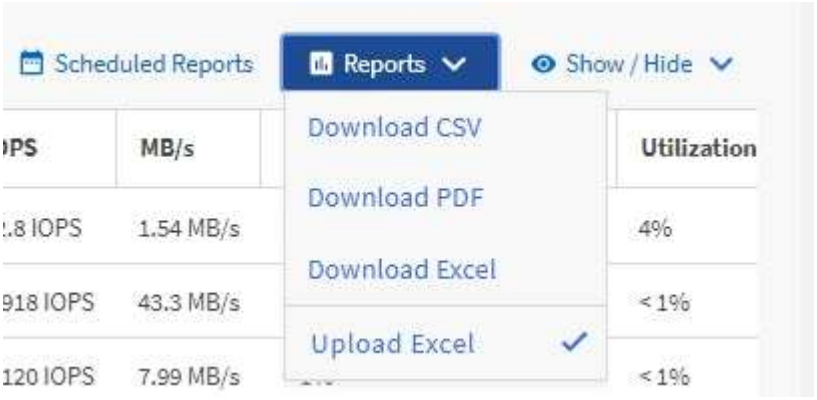
開始する前に

アップロードできるのは拡張子が.xlsxのExcelワークブック ファイルのみです。

たとえば、次に示すExcelの高度な機能をレポートで使用できます。

- 複数列の並べ替え
- 複雑なフィルタ
- ピボット テーブル
- グラフ

- ダウンロードしたExcelファイルには、保存した名前ではなくビューのデフォルトのファイル名が使用されます。
  - フォーマットは `<View Area>-<Day>-<Month>-<Year>-<Hour>-<Minute>-<Second>.xlsx`.
  - たとえば、その日時に保存された場合、 `Volumes-not online`という名前のカスタム保存ビューのファイル名は `health-volumes-05-May-2020-19-18-00.xlsx`になります。
- Excelファイルにはシートを追加できますが、既存のシートは変更しないでください。
  - 既存のシート、データ、情報は変更しないでください。代わりに、作成した新しいページにデータをコピーしてください。
  - 上記のルールには例外があり、「`data`」ページで数式を作成できます。データページの数式を使用して、新しいページにグラフを作成します。
  - 新しいシートにdataやinfoという名前を付けないでください。
- カスタマイズされたExcelファイルが存在する場合、レポート > **Excel**のアップロード メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。Excelファイルをダウンロードすると、カスタマイズ済みのバージョンが使用されま



す。

手順

1. レポートのベースとして使用するデフォルト ビュー、カスタム ビュー、または保存したビューを開きます。
2. レポート > *Excelをダウンロード*を選択します。
3. ファイルを保存します。ファイルがダウンロード フォルダに保存されます。
4. 保存したファイルをExcelで開きます。ファイルを新しい場所に移動しないでください。別の場所で作業を行う場合は、ファイルをアップロードする前に元のファイル名を使用してファイルを元の場所に保存し直してください。
5. 複雑な並べ替え、フィルタ、ピボット テーブル、グラフなどのExcel機能を使用してファイルをカスタマイズします。詳細については、Microsoft® Excelのドキュメントを参照してください。
6. レポート > **Excel**ファイルのアップロード を選択し、変更したファイルを選択します。最後にダウンロードされたファイルが、同じファイルの場所からアップロードされます。

7. *スケジュール済みレポート*機能を使用して、テストレポートを自分宛に送信してください。

Active IQ Unified Manager でレポートをダウンロードする

レポートをダウンロードして、データをカンマ区切り値（CSV）ファイル、Microsoft Excel（.XLSX）ファイル、またはPDFファイルとしてローカル ドライブやネットワーク ドライブに保存できます。CSVファイルとXLSXファイルはMicrosoft Excelなどのスプレッドシート アプリケーションで、PDFファイルはAdobe Acrobatなどのリーダーで開くことができます。

手順

1. 「レポート」ボタンをクリックして、レポートを次のいずれかの形式でダウンロードします：

選択	目的
CSV をダウンロード	レポートをカンマ区切り値（CSV）ファイルとして保存します。
PDF をダウンロード	レポートを.pdfファイルとして保存します。
Excel をダウンロード	レポートをMicrosoft Excel（XLSX）ファイルとして保存します。

レポートのスケジュール設定

Active IQ Unified Manager でレポートをスケジュールする

再利用してレポートとして共有したいビューができたら、Active IQ Unified Manager を使用してスケジュールを設定できます。スケジュールされたレポートを管理し、各レポートスケジュールの受信者と配信頻度を変更できます。

Unified Managerでは、ほとんどのビューやインベントリページをスケジュール設定できます。例外としてイベントがあり、これらはCSVファイルとしてダウンロードできるレポートですが、イベントの再生成や共有をスケジュールすることはできません。ダッシュボード、お気に入り、設定ページをダウンロードしたり、スケジュール設定したりすることもできません。

Active IQ Unified Manager 9.8以降では、ビューをMicrosoft® Excel形式でダウンロードしてカスタマイズできます。複雑な並べ替え、フィルタ、ピボット テーブル、グラフなど、Excelの高度な機能を使用できます。カスタマイズしたExcelレポートに問題がなければ、Excelファイルをアップロードして、レポートの定期的な生成時や共有時に使用できます。

組み込みのビューとカスタマイズしたビューはスケジュール設定できます。送信するファイル タイプとしてCSV、PDF、またはXSLXを選択できます。初めてスケジュール設定したときにレポートをダウンロードして自身を唯一の受信者として割り当てると、受信者にレポートがどう表示されるかを確認できます。

レポートをスケジュールする

Active IQ Unified Manager でレポートをスケジュールする

スケジュールを設定して定期的に生成および配布するビューまたはExcelファイルを決定したら、レポートのスケジュールを設定できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- レポートエンジンがUnified Managerサーバーから受信者リストにレポートをメール添付ファイルとして送信できるように、一般 > 通知 ページでSMTPサーバーの設定を構成しておく必要があります。
- 生成されたEメールによる添付ファイルの送信を許可するよう、Eメール サーバを設定する必要があります。

次の手順を実行して、ビューに対して生成するレポートをテストし、スケジュール設定します。使用するビューを選択またはカスタマイズします。この手順ではネットワーク インターフェイスのパフォーマンスを表示するネットワーク ビューを使用しますが、任意のビューを使用できます。

手順

1. ビューを開きます。この例では、LIFのパフォーマンスを表示するデフォルトのネットワークビューを使用します。左側のナビゲーションペインで、*ネットワーク > ネットワークインターフェイス*をクリックします。
2. Unified Managerに搭載されている機能を使用して、必要に応じてビューをカスタマイズします。
3. ビューをカスタマイズしたら、*ビュー*フィールドに一意の名前を入力し、チェックマークをクリックして保存します。



4. Microsoft® Excelの高度な機能を使用して、レポートをカスタマイズできます。詳細については、"Excelを使用したレポートのカスタマイズ"を参照してください。
5. レポートをスケジュール設定または共有する前に内容を確認するには、次の手順を実行します。

オプション	説明
Excelを使用してレポートをカスタマイズした場合	ダウンロードした既存のExcelファイルを表示します。
レポートのカスタマイズに**Excel**を使用しなかった場合	レポートを*CSV*、**PDF**、または*XLSX*ファイルとしてダウンロードしてください。

Microsoft Excel（CSV / XSLX）やAdobe Acrobat（PDF）などのインストールされているアプリケーションでファイルを開きます。

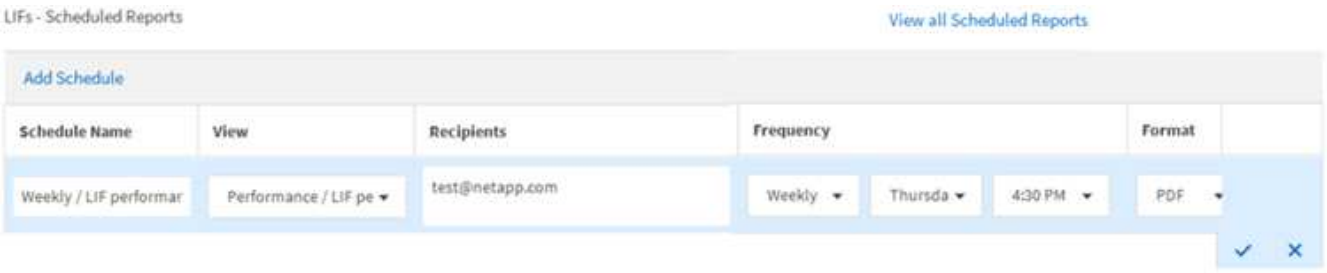
6. レポートの内容にご満足いただけましたら、*定期レポート*をクリックしてください。
7. レポートスケジュールのページで、*スケジュールを追加*をクリックします。
8. デフォルトの名前（ビュー名と頻度の組み合わせ）を受け入れるか、*スケジュール名*をカスタマイズしてください。
9. スケジュールされたレポートを初めてテストするには、*受信者*として自分自身のみを追加してくださ

い。内容に問題がなければ、レポートの受信者全員のメールアドレスを追加してください。

10. レポートの生成頻度と受信者への送信頻度を指定してください。毎日、毎週、*毎月*のいずれかを選択できます。
11. フォーマットは、**PDF**、**CSV**、または*XSLX*から選択してください。

> Excelを使用してコンテンツをカスタマイズしたレポートの場合は、必ず*XSLX*を選択してください。

12. レポートスケジュールを保存するには、チェックマーク（✓）をクリックします。



テスト レポートがすぐに送信されます。以降、スケジュール設定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

Active IQ Unified Manager でインポートされた **.rptdesign** レポートをスケジュールする

以前のリリースのUnified Managerで作成およびインポートした既存のレポートをスケジュールできます。

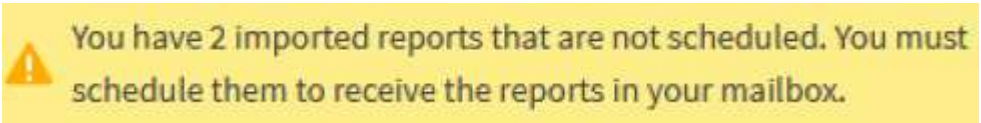
インポートしたレポートをスケジュール設定する場合の要件は次の通りです。

- 以前のUnified Managerリリースで設計し、インポートした.rptdesignファイル レポート
- Unified Manager 9.6 GA以降にアップグレードする場合に該当

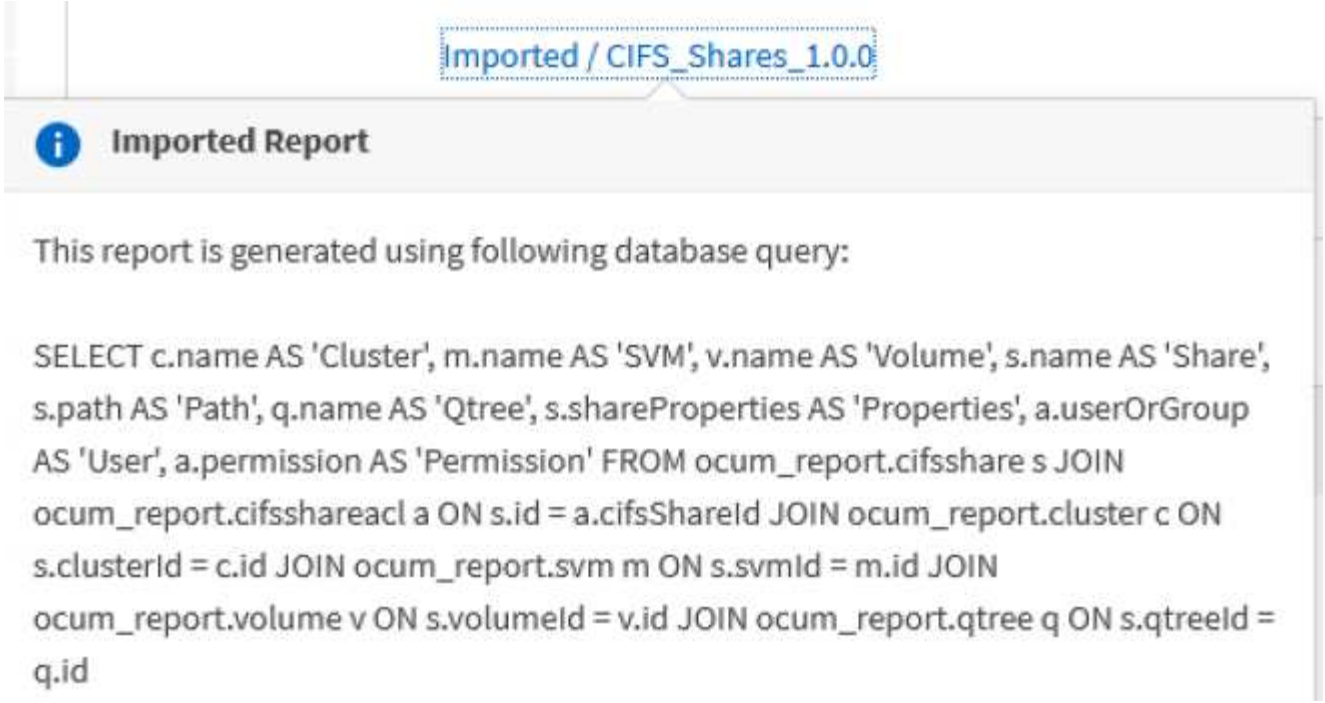
Unified Manager 9.6 GA以降にアップグレードすると、「レポートスケジュール」ページにインポートされたレポートが表示されます。これらのレポートのスケジュールを編集して、受信者のEメール アドレス、頻度、形式（PDFまたはCSV）を指定できます。これらの編集をしていないレポートは、Unified Manager UIで編集または表示できません。

手順

1. [レポート スケジュール]ページを開きます。インポートしたレポートがある場合、次のようなメッセージが表示されます。



2. 「View」名をクリックすると、レポート生成に使用されているSQLクエリが表示されます。



3. その他アイコン ⋮ をクリックし、「編集」をクリックして、レポートのスケジュール詳細を定義し、レポートを保存します。

不要なレポートは、その他アイコン ⋮ から削除することもできます。

レポートのスケジュールを管理する

Active IQ Unified Manager でレポートスケジュールを管理する

[レポート スケジュール]ページからレポート スケジュールを管理できます。既存のスケジュールを表示、変更、または削除することができます。

開始する前に

[レポート スケジュール]ページから新しいレポートをスケジュール設定することはできません。スケジュール済みレポートは、オブジェクト インベントリ ページからのみ追加できます。

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > レポートスケジュール をクリックします。
2. [レポート スケジュール]ページで、次の手順を実行します。

状況	操作
既存のスケジュールを表示する	スクロール バーとページ コントロールを使用して、既存のレポートのリストをスクロールします。

状況	操作
既存のスケジュールを編集する	a. 使用するスケジュールのその他アイコン ⋮ をクリックします。 b. *編集*をクリックします。 c. 必要な変更を行います。 d. チェック マークをクリックして変更を保存します。
既存のスケジュールを削除する	a. 使用するスケジュールのその他アイコン ⋮ をクリックします。 b. *削除*をクリックします。 c. 操作を確定します。

Active IQ Unified Manager でスケジュールされたレポートを編集する

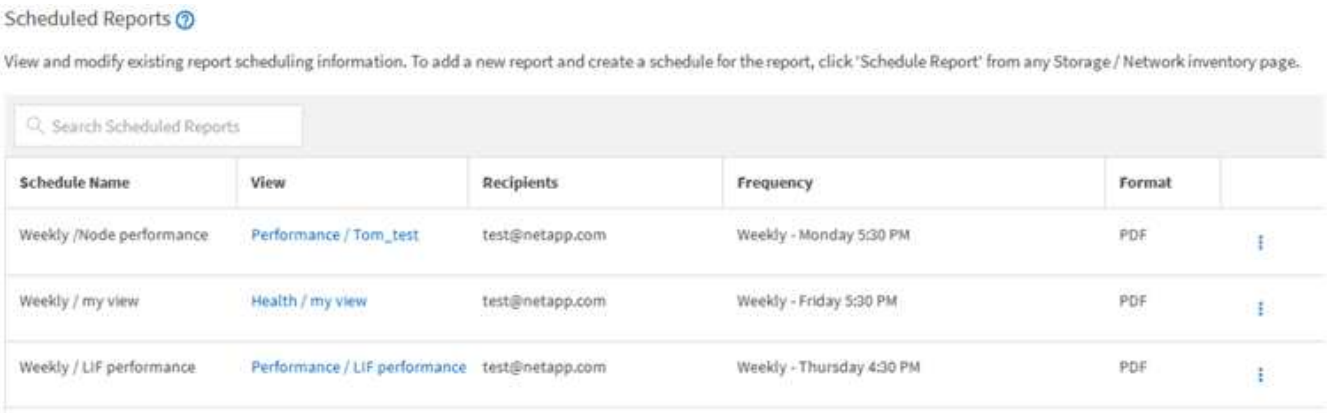
スケジュールを設定したレポートは、[レポート スケジュール]ページで編集できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ レポートスケジュール をクリックします。



適切な権限があれば、システム内のすべてのレポートとそのスケジュールを変更できます。

2. 変更するスケジュールのその他アイコン ⋮ をクリックします。
3. *編集*をクリックします。
4. レポートスケジュールの*Schedule Name*、**Recipient***リスト、***Frequency**、および*Format*を変更できます。
5. 完了したら、チェック マークをクリックして変更を保存します。

Active IQ Unified Manager でスケジュールされたレポートを削除する

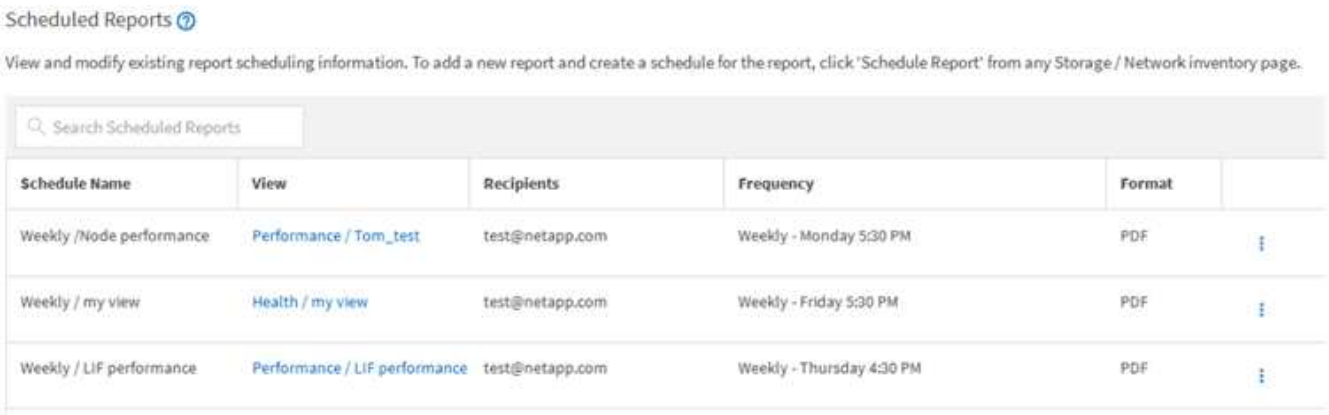
スケジュールを設定したレポートは、[レポート スケジュール]ページで削除できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ レポートスケジュール をクリックします。



適切な権限があれば、システム内のすべてのレポートとそのスケジュールを削除できます。

2. 削除するスケジュールのその他アイコン ⋮ をクリックします。
3. *削除*をクリックします。
4. 操作を確定します。

スケジュール済みレポートがリストから削除され、設定されたスケジュールで生成および配布されなくなります。

インベントリ ページからカスタム ビューを削除すると、そのビューを使用するカスタムExcelファイルまたはスケジュール済みレポートも削除されます。

サンプルのカスタム レポート

Active IQ Unified Manager のサンプルカスタムレポートについて

以下に記載するサンプルのカスタム レポートを使用して、潜在的な問題を発生前に特定して対処することができます。

レポート リストはすべてのレポートを網羅しているわけではなく、今後も増えていきます。このセクションに追加して欲しいカスタム レポートがあれば、ドキュメントに関するフィードバックの形で提案していただくことができます。

レポートを操作するには、アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要で

す。

クラスタストレージレポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でクラスタモデル別の容量を表示するレポートを作成する

クラスタのストレージ容量と利用率をストレージ システム モデルに基づいて分析するためのレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、クラスタ モデル別に容量を表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > クラスター をクリックします。
2. 「表示」メニューで、容量 > *すべてのクラスター*を選択します。
3. 「表示/非表示」を選択して、レポートに表示したくない「Cluster FQDN」や「OS Version」などの列を削除します。
4. 「Total Raw Capacity」、「Model/Family」、および3つの集計列を「Cluster」列の近くにドラッグします。
5. 「Model/Family」列の上部をクリックすると、結果をクラスターの種類別に並べ替えることができます。
6. ビューが示している内容を反映した特定の名前（たとえば「クラスタモデル別の容量」）でビューを保存します。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、特定のクラスタに容量を追加したり、古いクラスタ モデルをアップグレードしたりすることができます。

Active IQ Unified Manager で未割り当て LUN 容量を持つクラスターを特定する

未割り当てのLUN容量が最も多い（0.5TBを超える）クラスタを検出するレポートを作成して、ワークロードを追加できる場所を特定できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、未割り当てのLUN容量が最も多いクラスタを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > クラスター をクリックします。
2. 「表示」メニューで、容量 > *すべてのクラスター*を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Unallocated LUN Capacity」列を「HA Pair」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - 未割り当てのLUN容量が0.5TBを超えている
6. 「Unallocated LUN Capacity」列の上部をクリックすると、未割り当てLUN容量の大きい順に結果を並べ替えることができます。
7. ビューが表示している内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「Most unallocated LUN capacity」と入力して、チェックマーク（✓）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、クラスタの未割り当てLUN容量を使用できます。

Active IQ Unified Manager で利用可能な容量が最も多い **HA** ペアを表示するレポートを作成する

新しいボリュームやLUNのプロビジョニングに使用できる容量が最も多いハイアベイラビリティ（HA）ペアを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、新しいボリュームやLUNのプロビジョニングに使用できる容量が多い順にHAペアをソートして表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > クラスター をクリックします。
2. 「表示」メニューで、容量 > *すべてのクラスター*を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Aggregate Unused Capacity」列を「HA Pair」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックし

てください。

- アグリゲートの未使用容量が0.5TBを超えている

6. 「Aggregate Unused Capacity」列の上部をクリックすると、未使用のアグリゲート容量が最も多い順に結果を並べ替えることができます。
7. ビューに表示される内容を反映した特定の名前（たとえば「使用率が最も低いアグリゲート容量」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アグリゲートの容量に応じてHAペアのバランスを調整できます。

Active IQ Unified Manager で古いバージョンの ONTAP を実行しているノードを表示するレポートを作成する

すべてのクラスタ ノードにインストールされているONTAPソフトウェアのバージョンを表示するレポートを作成して、アップグレードが必要なノードを確認できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、古いバージョンのONTAPを実行しているノードを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*ノード*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「OS Version」列を「Node」列の近くにドラッグします。
4. 「OS Version」列の上部をクリックすると、最も古いバージョンの ONTAP 順に結果が並べ替えられます。
5. ビューの内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば、「Nodes by ONTAP version」とします。
6. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
7. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、古いバージョンのONTAPを実行しているノードをアップグレードできます。

アグリゲート容量レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager で容量が上限に達しているアグリゲートを表示するレポートを作成する

容量がフルに近づいているアグリゲートを検出するレポートを作成して、容量を追加したり、ワークロードを他のアグリゲートに移したりすることができます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、容量がフルに近づいているアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのアグリゲート」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - フルまでの日数が45日未満
5. 「`Days to Full`」列の先頭をクリックして、容量がフルになるまでの残り日数が少ない順に結果を並べ替えます。
6. ビューが表示する内容を反映した特定の名前（たとえば「アグリゲートがフル容量になるまでの日数」）でビューを保存し、チェックマーク（）をクリックします。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、容量がフルに近づいているアグリゲートのストレージを拡張できます。また、アグリゲートのスペースが少なくなった場合に早めにイベントを受信して対応できるように、「フルまでの日数」容量しきい値をデフォルトの7日より多い日数に引き上げることができます。

Active IQ Unified Manager で**80%**以上使用されているアグリゲートを表示するレポートを作成する

80%以上フルのアグリゲートを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、80%以上フルのアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのアグリゲート」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`Available Data %`」列と「`Used Data %`」列を「`Aggregate`」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックします。
   - 使用済みデータ（%）が80%を超えている
6. 「`Used Data %`」列の上部をクリックすると、結果を容量率で並べ替えることができます。
7. ビューに表示されている内容を反映した特定の名前（たとえば「フルに近いアグリゲート」）でビューを保存し、チェックマーク（）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、一部のアグリゲートからデータを移動できます。

Active IQ Unified Manager で過剰にコミットされているアグリゲートを表示するレポートを作成する

アグリゲートのストレージ容量と使用状況を分析するために、オーバーコミットされたアグリゲートを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、オーバーコミットのしきい値を超えているアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのアグリゲート」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`Overcommitted Capacity %`」列を「`Aggregate`」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックします。

◦ オーバーコミット容量（%）が100%を超えている

6. 「Overcommitted Capacity %」列の上部をクリックすると、結果を容量の割合で並べ替えることができます。
7. ビューが表示している内容を反映した特定の名前（たとえば「アグリゲートのオーバーコミット」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アグリゲートに容量を追加したり、特定のアグリゲートからデータを移動したりすることができます。

ボリューム容量レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Managerで**Snapshot**の自動削除が無効になっている、容量が上限に近づいているボリュームを特定する

Snapshotの自動削除機能が無効になっていて容量がフルに近づいているボリュームをリストするレポートを作成できます。このレポートは、Snapshotの自動削除を設定する必要があるボリュームを特定するのに役立ちます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Snapshotの自動削除」列と「Days To Full」列を「Available Data Capacity」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下の2つのフィルターを追加してから、**Apply Filter** をクリックします。
   ◦ フルまでの日数が30日未満
   ◦ Snapshotの自動削除が無効
6. 「満杯までの日数」列の一番上をクリックすると、残りの日数が最も少ないボリュームがリストの一番上に表示されます。

7. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けてビューを保存します。例：「Vols near capacity」
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリュームでSnapshotの自動削除を有効にしたり、使用可能なスペースを増やす方法を特定したりすることができます。

Active IQ Unified Manager でシンプロビジョニングが無効になっているボリュームを特定する

シンプロビジョニングされていないボリュームは、ボリューム作成時に定義されたスペースの全容量をディスク上で占有します。シンプロビジョニングが無効になっているボリュームを特定することで、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にする必要があるかどうかを判断できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Used Data %」列と「Thin Provisioned」列を「Available Data Capacity」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルターアイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、シンプロビジョニング済み を いいえ に設定し、フィルターを適用 をクリックします。
6. 「Used Data %」列の上部をクリックすると、使用データ率が最も高いボリュームがリストの上位に表示されるように結果を並べ替えることができます。
7. ビューの内容を反映した名前を付けてビューを保存します。例：「Vols no thin provisioning」。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. 「スケジュールの追加」をクリックして、「レポートスケジュール」ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドを完了したら、行の末尾にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にすることができます。

Active IQ Unified Manager でクラウド層にデータを移動する必要があるボリュームを特定します

現在FabricPoolアグリゲートにあってクラウド階層に関する推奨事項があり、さらに大量のコールド データがあるボリュームのリストを記載したレポートを作成できます。このレポートは、特定のボリュームの階層化ポリシーを「auto」または「all」に変更して、より多くのコールド（非アクティブ）データをクラウド階層にオフロードすべきかどうかを判断するのに役立ちます。

開始する前に

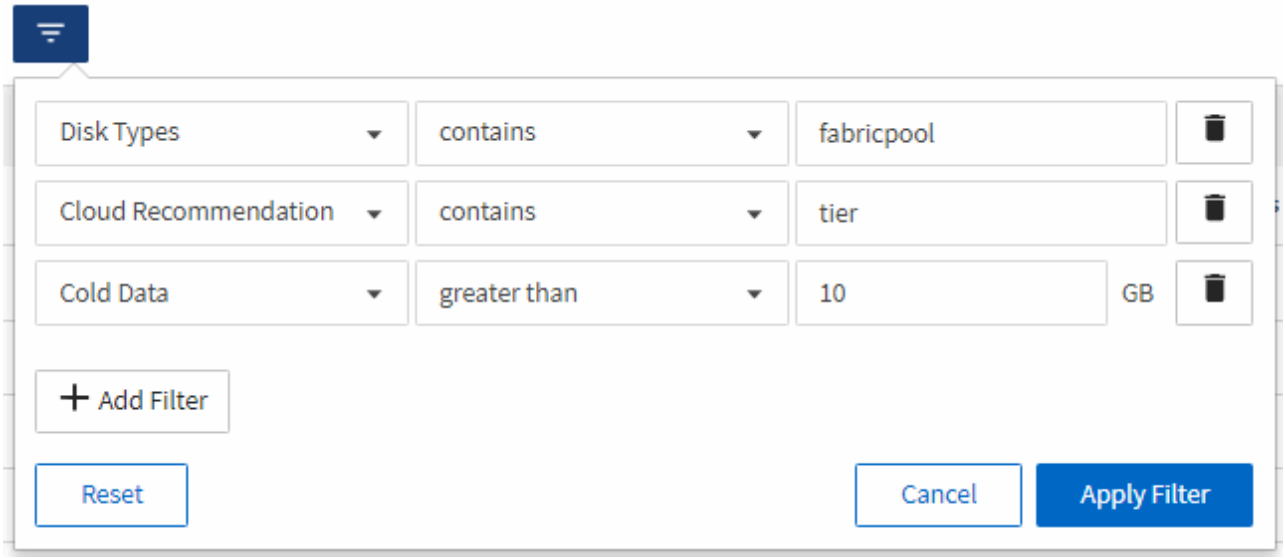
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- FabricPoolアグリゲートを設定しておく必要があります。また、それらのアグリゲート上にボリュームが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「パフォーマンス」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. 列選択画面で、「Disk Type」列が表示されていることを確認してください。

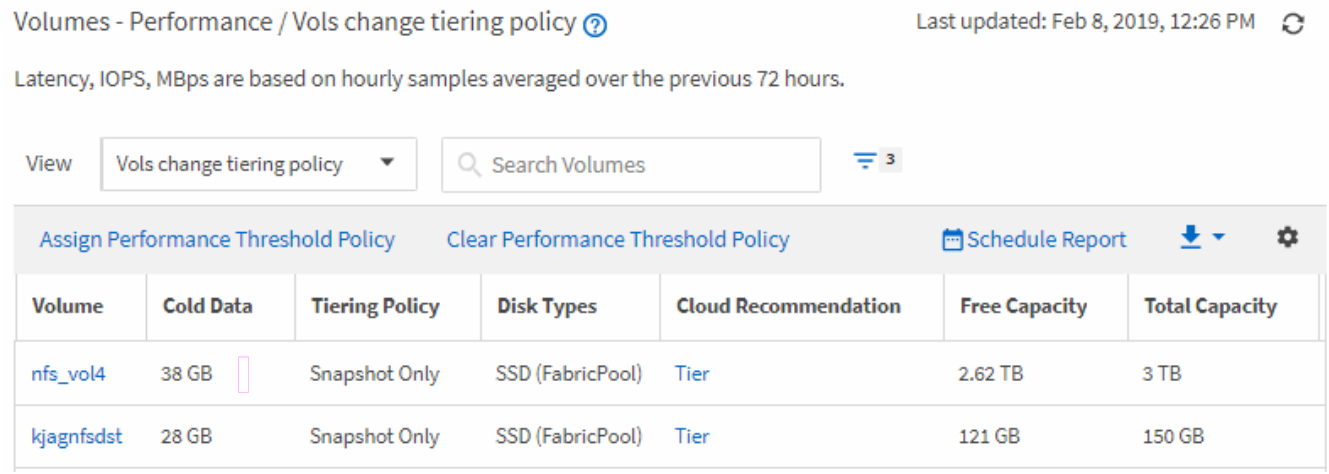
   他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。
4. 「Disk Type」列を「Cloud Recommendation」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下の3つのフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックします。
   - ディスクの種類にFabricPoolが含まれる
   - クラウドに関する推奨事項に階層が含まれる
   - 10 GBを超えるコールドデータ



6. [コールド データ]列の上部をクリックして、コールド データの量が最も多いボリュームがビューの先頭に

表示されるようにします。

7. ビューの内容を反映した名前を付けて保存します。例：「`Vols change tiering policy`」



8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに示された結果に基づいて、System ManagerまたはONTAP CLIを使用して、特定のボリュームの階層化ポリシーを「`auto`」または「`all`」に変更し、より多くのコールドデータをクラウド階層にオフロードすることをお勧めします。

Qtreeの容量レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でほぼ満杯の **qtree** を表示するレポートを作成します

qtreeのストレージ容量と利用率を分析するために、ほぼフルのqtreeを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ほぼフルのqtreeを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*Qtrees*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「`Disk Used %`」列を「`Qtrees`」列の近くにドラッグします。
4. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックし

ます。

◦ 使用済みディスク（%）が75%を超えている

5. 「Disk Used %」列の上部をクリックすると、結果を容量の割合で並べ替えることができます。
6. ビューが表示している内容を反映した特定の名前（たとえば「Qtrees nearing full」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）をクリックします。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. 「スケジュールの追加」をクリックして、「レポートスケジュール」ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ディスクのハード リミットやソフト リミットを調整したり（設定されている場合）、qtree間でデータのバランスを調整したりすることができます。

NFS共有レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified ManagerでNFS共有レポートをカスタマイズする

ストレージ システム上のボリュームに対するNFSエクスポートのポリシーとルールの情報を分析できるように、[NFS共有]レポートをカスタマイズすることができます。たとえば、アクセスできないマウント パスがあるボリュームやデフォルトのエクスポート ポリシーを使用するボリュームを表示するように、レポートをカスタマイズできます。

Active IQ Unified Manager でアクセスできないマウントパスを持つボリュームを表示するレポートを作成する

マウント パスにアクセスできないボリュームを特定するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、マウント パスにアクセスできないボリュームのカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > *NFS共有*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。

   ◦ マウント パスがアクティブではない

4. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「Volumes with an inaccessible mount path」と入力して、チェックマーク（✓）をクリックします。

5. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
6. スケジュールを追加 をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
7. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アクセスできないマウント パスを修正できます。

Active IQ Unified Manager でデフォルトのエクスポートポリシーを使用するボリュームを表示するレポートを作成する

デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームのカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > *NFS共有*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「`Export Policy`」列を「`Volume`」列の近くにドラッグします。
4. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - エクスポート ポリシーにデフォルトが含まれている
5. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「`Volumes with a default export policy`」と入力して、チェックマーク（✓）をクリックします。
6. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
7. スケジュールを追加 をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、カスタムのエクスポート ポリシーを設定できます。

ストレージ**VM**レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でストレージ VM レポートをカスタマイズする

Storage VMレポートを作成して、ボリューム情報を分析したり、全体の健全性とストレージの可用性を確認したりできます。たとえば、レポートを作成して、ボリューム数の上限に達したSVMを表示したり、停止したSVMを分析したりできます。

Active IQ Unified Manager で最大ボリューム制限に達しているストレージ VM を表示するレポートを作成します

ボリューム数が上限に達しているSVMを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム数が上限に達しているStorage VMを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > ストレージ**VM** をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「`Volume Count`」列と「`Maximum Allowed Volumes`」列を「`Storage VM`」列の近くにドラッグします。
4. 「`Maximum Allowed Volumes`」列の一番上をクリックすると、ボリューム数の多い順に結果を並べ替えることができます。
5. ビューが表示している内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「`SVMs reaching max volumes`」と入力し、チェックマーク（✓）をクリックします。
6. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
7. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、Storage VMに割り当てるボリュームを調整できます。また、可能であれば、ONTAP System Managerを使用して許容される最大ボリューム数を変更することができます。

Active IQ Unified Manager で停止したストレージ VM を表示するレポートを作成します

停止しているすべてのSVMのリストを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、停止しているStorage VMを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > ストレージ**VM** をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「ヘルス」>「すべてのストレージVM」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「State」列を「Storage VM」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - 状態が停止である
6. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「Stopped SVMs」と入力してチェックマーク（✓）をクリックします。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、SVMが停止した理由を調査して、停止しているSVMの再起動が必要かどうかを確認できます。

ボリューム関係レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でボリューム関係レポートをカスタマイズする

ボリューム関係インベントリ レポートでは、クラスタ内のストレージ インベントリの詳細を分析できるほか、ボリュームに必要な保護レベルを把握したり、障害の原因、パターン、スケジュールに基づいてボリュームの詳細をフィルタリングしたりすることができます。

Active IQ Unified Manager で障害の原因別にボリューム関係をグループ化するレポートを作成する

関係が正常な状態でない理由別にボリュームをグループ化するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリュームを障害の原因別にグループ化するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。

2. 「表示」メニューで、関係 > *すべての関係*を選択します。
3. 「Relationship Health」と「Unhealthy Reason」の列がビューに表示されるようにするには、**Show/Hide** を選択してください。

   他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。
4. 「Relationship Health」列と「Unhealthy Reason」列を「State」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - 関係の健全性に問題あり
6. 「Unhealthy Reason」列の上部をクリックすると、障害の原因別にボリュームの関係をグループ化できます。
7. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存してください。例えば、「Vol relationships by failure」などです。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、障害のタイプごとに原因と影響を調査できます。

Active IQ Unified Manager でボリュームの関係を問題別にグループ化するレポートを作成する

ボリューム関係を問題別にグループ化するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム関係を問題別にグループ化するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、関係 > *すべての関係*を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Unhealthy Reason」列を「State」列の近くにドラッグします。
5. 「Unhealthy Reason」列の上部をクリックすると、問題ごとにボリュームをグループ化できます。
6. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存してください。例えば、「Vol relationships by issue」などです。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、問題のタイプごとに原因と影響を調査できます。

Active IQ Unified Manager で一定時間間隔でのボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成する

特定の期間のボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、特定の期間のボリュームを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月間の転送状況」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「転送期間」列を「運用結果」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - 転送終了時間が過去7日間以内
6. 「`Transfer Duration`」列の上部をクリックすると、ボリュームを時間間隔で並べ替えることができます。
7. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けてビューを保存します。例：「`Volumes by duration`」
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、頻度を*Weekly*に設定し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、転送期間を調査できます。

Active IQ Unified Manager で失敗または成功したボリューム転送を表示するレポートを作成します

ボリューム転送のステータスを表示するレポートを作成できます。このレポートでは、失敗したボリューム転送と成功したボリューム転送の両方を確認できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、失敗した転送と成功した転送を表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月間の転送状況」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Operation Result」列を「State」列の近くにドラッグします。
5. 「Operation Result」列の上部をクリックすると、ボリュームをステータス順に並べ替えることができます。
6. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存します。例：「Volumes by transfer status」
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、転送ステータスを調査できます。

Active IQ Unified Manager で転送サイズに基づいてボリューム転送を表示するレポートを作成する

ボリューム転送を転送サイズに基づいて表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム転送を転送サイズに基づいて表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月の転送レート」を選択します。
3. 「Total Transfer Size」列の上部をクリックすると、ボリューム転送をサイズ順に並べ替えることができます。
4. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存します。例：「Volumes by transfer size」
5. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
6. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリューム関係を転送サイズ別に調査できます。

Active IQ Unified Manager でボリューム転送を日ごとにグループ化して表示するレポートを作成します

ボリューム転送を日付別に表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム転送を日付別に表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月の転送レート」を選択します。
3. 「`Day`」列の上部をクリックすると、ボリューム転送を日ごとに並べ替えることができます。
4. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存します。例：「`Volume transfers by day`」
5. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
6. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリューム転送を日付別に調査できます。

ボリュームパフォーマンスレポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager で非**FabricPool**アグリゲート上のコールドデータが多いボリュームを特定するレポートを作成する

FabricPool以外のアグリゲート上のコールド データを大量に含むボリュームを表示するレポートを作成できます。このレポートから、FabricPoolアグリゲートに移動する必要があるボリュームを特定できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、FabricPool対応でないアグリゲート上のコールド データを大量に含むボリュームを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「パフォーマンス」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. 「`Disk Type`」列がビューに表示されるようにするには、「表示/非表示」を選択してください。

   他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。

4. 「Disk Type」列を「Cold Data」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - コールド データが100GBを超える
   - ディスク タイプにSSDが含まれる
6. 「ディスクタイプ」列の上部をクリックしてボリュームをディスクタイプで並べ替え、ディスクタイプSSD（FabricPool）が一番下になるようにします。
7. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば、「Cold data vols not FabricPool」。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、FabricPoolアグリゲートに移動した方がよいボリュームを特定できます。

Microsoft Excelのサンプル レポート

Active IQ Unified Manager で Microsoft Excel のサンプルレポートを理解する

ここでは、Microsoft Excelのサンプル レポートをとおして、Excelの高度な機能を使用したレポート オプションを紹介します。

Excelの高度な機能により、ニーズに合わせたさまざまなレポートを作成することができます。Excelの詳細な使用方法については、製品ドキュメントを参照してください。

ⓘ レポートを操作するには、アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

Active IQ Unified Manager でアグリゲート容量のテーブルとグラフを表示するレポートを作成する

合計および集合縦棒グラフ形式を使用して、容量を分析するためのレポートをExcelファイルで作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、「健全性：すべてのアグリゲート」ビューを開き、ビューを Excel 形式でダウンロードし、使用可能容量チャートを作成し、カスタマイズした Excel ファイルをアップロードして、最終レポートをスケジュールします。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. レポート > *Excelをダウンロード*を選択します。



お使いのブラウザによっては、ファイルを保存するために「OK」をクリックする必要がある場合があります。

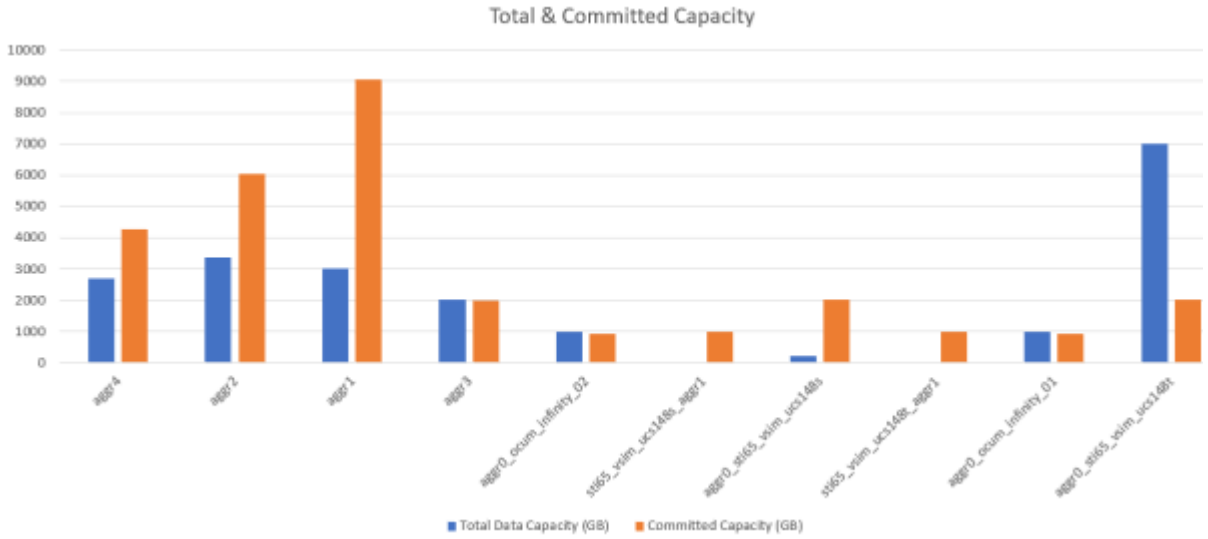
3. 必要に応じて、*編集を有効にする*をクリックしてください。
4. ダウンロードしたファイルをExcelで開きます。
5. `data`シートの後に新しいシート（⊕）を作成し、**Total Data Capacity** という名前を付けます。
6. 作成したTotal Data Capacityシートに次の列を追加します。
   a. 合計データ容量（GB）
   b. コミット済み容量（GB）
   c. 使用済みデータ容量（GB）
   d. 使用可能なデータ容量（GB）
7. 各列の最初の行に、次の式を入力します。必ず、dataシート（data!）を参照し、キャプチャされたデータの正しい列と行を参照してください（Total Data CapacityはE列の2～20行目からデータを取得します）。
   a. =SUM(data!E$2:data!E$20)
   b. =SUM(data!F$2:data!F$50)
   c. =SUM(data!G$2:data!G$50)
   d. =SUM(data!H$2:data!H$50)

この式は、現在のデータに基づいて各列の値を合計します。

Total Data Capacity (GB)	Committed Capacity (GB)	Used Data Capacity (GB)	Available Data Capacity (GB)
5380.31	6892.47	11764.27	3911.03

1. データシートで、*総データ容量（GB）*と*コミット済み容量（GB）*の列を選択します。
2. 「挿入」*メニューから「推奨グラフ」を選択し、「集合縦棒」*グラフを選択します。
3. チャートを右クリックして「チャートの移動」を選択し、チャートを `Total Data Capacity`シートに移動します。

4. グラフを選択すると表示される「デザイン」メニューと「書式」メニューを使用すると、グラフの外観をカスタマイズできます。
5. 問題がなければ、変更したファイルを保存します。ファイルの名前や場所は変更しないでください。

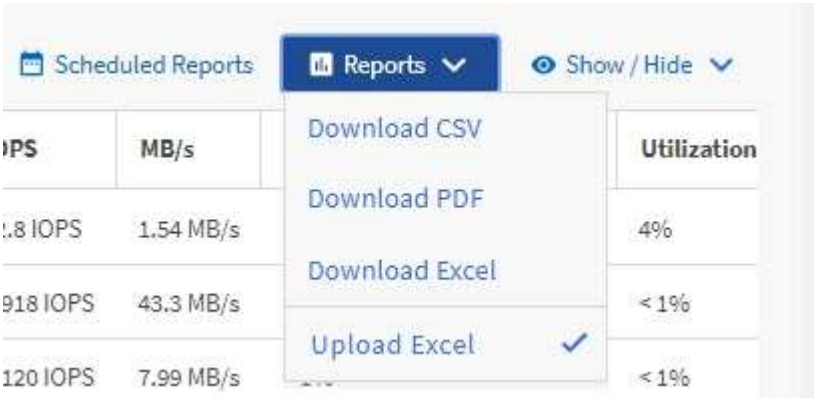


6. Unified Managerで、レポート > *Excelファイルのアップロード*を選択します。

> Excelファイルをダウンロードしたときと同じビューが表示されていることを確認してください。

7. 変更したExcelファイルを選択します。
8. *Open*をクリックします。
9. 「送信」をクリックしてください。

レポート > **Excel**のアップロード メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。



10. *スケジュール済みレポート*をクリックします。
11. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。

> レポートの形式として*XLSX*を選択してください。

12. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、どうすればネットワーク全体で使用可能容量を有効に利用できるかを調べることができます。

Active IQ Unified Manager でアグリゲートの合計容量と使用可能な容量のグラフを表示する

ストレージの合計容量とコミット済み容量を分析するためのExcelグラフ形式のレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

以下の手順に従って、Health：All Aggregatesビューを開き、ビューをExcelでダウンロードし、合計容量とコミット済み容量のグラフを作成し、カスタマイズしたExcelファイルをアップロードして、最終レポートのスケジュールを設定します。

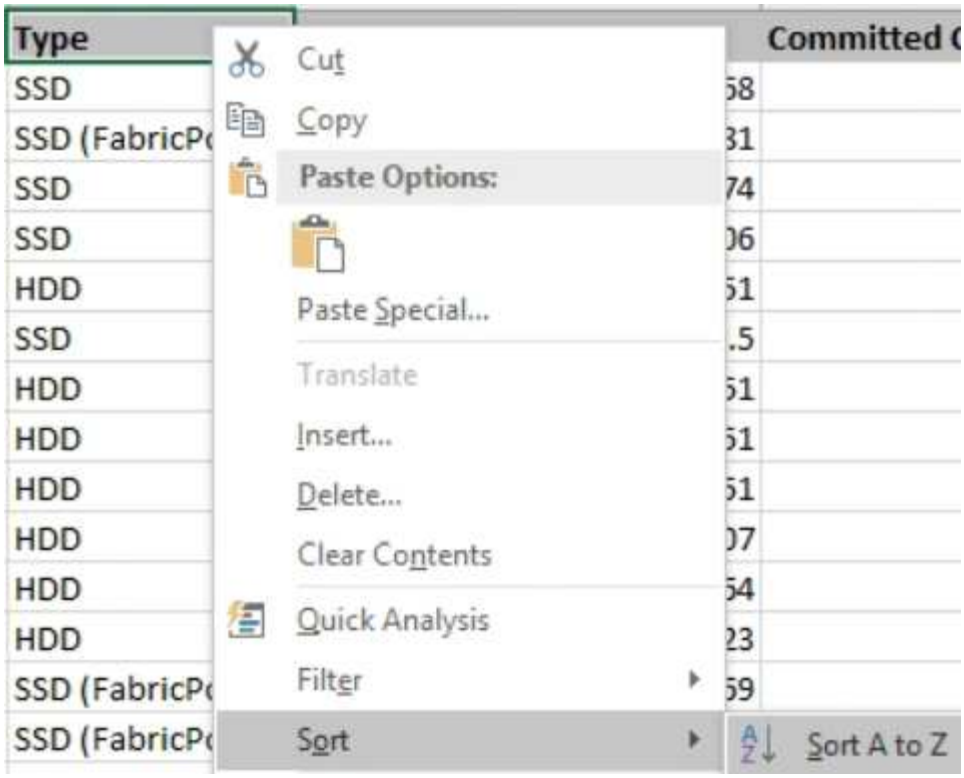
手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. レポート > *Excelをダウンロード*を選択します。



    お使いのブラウザによっては、ファイルを保存するために「OK」をクリックする必要がある場合があります。

3. ダウンロードしたファイルをExcelで開きます。
4. 必要に応じて、*編集を有効にする*をクリックしてください。
5. データシートで、タイプ列を右クリックし、並べ替え > **A** から **Z** に並べ替え を選択します。

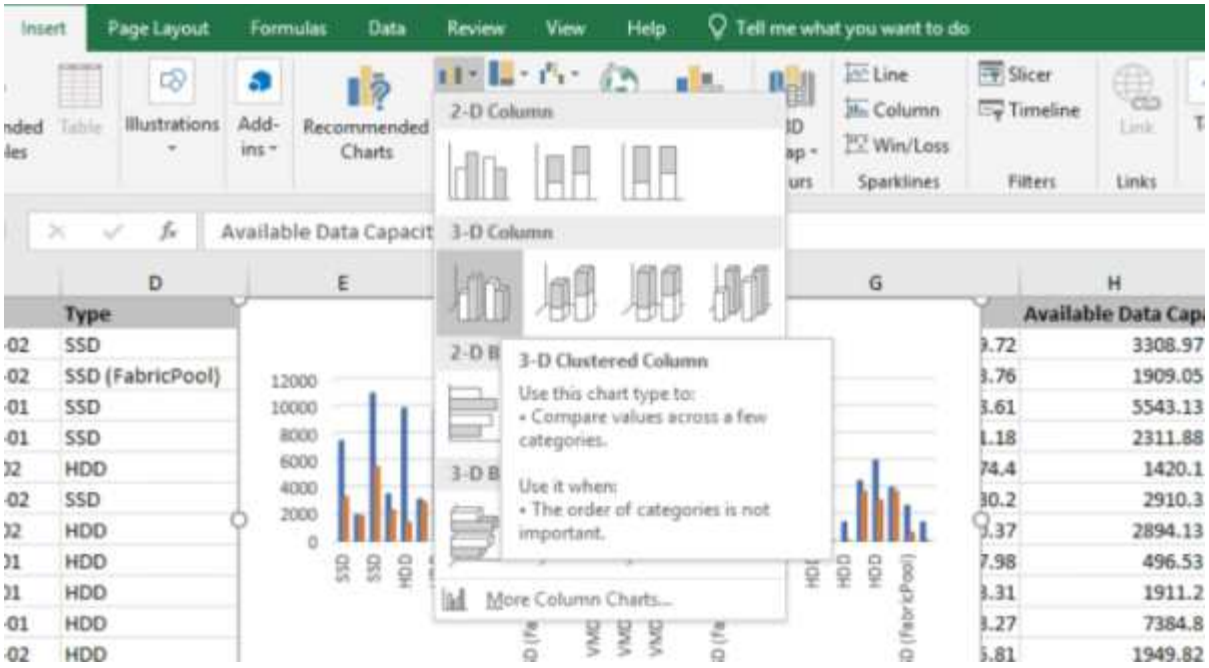


次のようなストレージ タイプ別にデータが並べ替えられます。

- HDD
- ハイブリッド
- SSD
- SSD（FabricPool）

6. `Type, Total Data Capacity,`と `Available Data Capacity`の列を選択します。
7. *挿入*メニューで、 `3-D column`チャートを選択します。

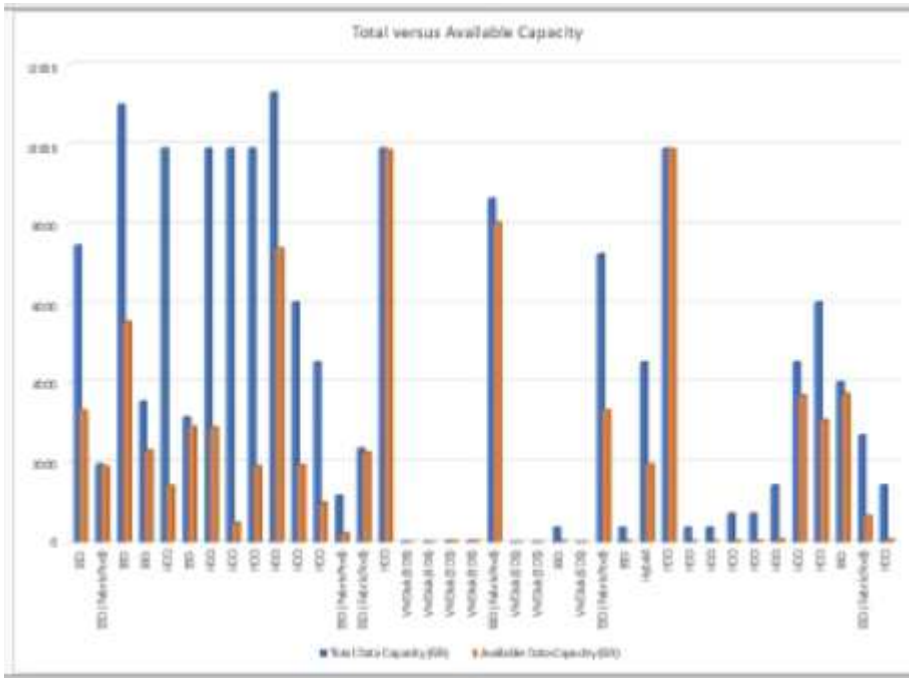
   グラフがdataシートに表示されます。



8. グラフを右クリックして、*Move Chart*を選択します。
9. *新規シート*を選択し、シート名を*Total Storage Charts*とします。

   infoシートとdataシートのあとに新しいシートが表示されることを確認してください。

10. グラフのタイトルを 総容量対利用可能容量 としてください。
11. グラフを選択すると表示される「デザイン」メニューと「書式」メニューを使用すると、グラフの外観をカスタマイズできます。
12. 問題がなければ、変更したファイルを保存します。ファイルの名前や場所は変更しないでください。

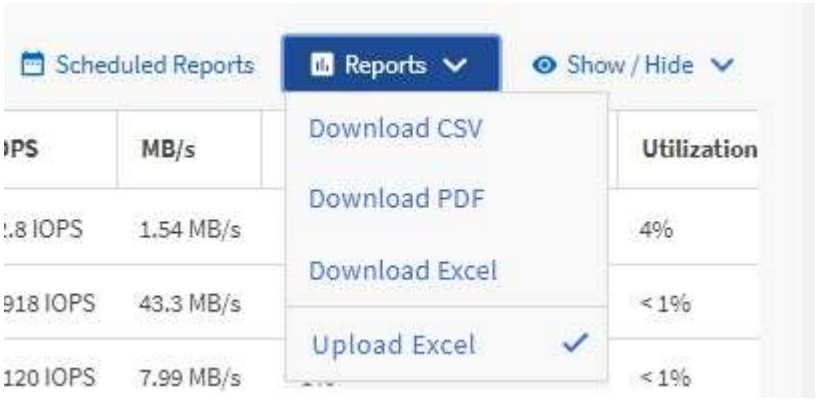


13. Unified Managerで、レポート > *Excelファイルのアップロード*を選択します。

Excelファイルをダウンロードしたときと同じビューが表示されていることを確認してください。

14. 変更したExcelファイルを選択します。
15. *Open*をクリックします。
16. 「送信」をクリックしてください。

    レポート > **Excel**のアップロード メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。



17. *スケジュール済みレポート*をクリックします。
18. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。

    レポートの形式として*XLSX*を選択してください。

19. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アグリゲートの負荷を分散できます。

Active IQ Unified Manager で利用可能なボリューム容量チャートを表示するレポートを作成する

使用可能なボリューム容量を分析するためのExcelグラフ形式のレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

以下の手順に従って、「ヘルス：すべてのボリューム」ビューを開き、ビューをExcelでダウンロードし、空き容量のグラフを作成し、カスタマイズしたExcelファイルをアップロードして、最終レポートのスケジュールを設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. レポート > *Excelをダウンロード*を選択します。



お使いのブラウザによっては、ファイルを保存するために「OK」をクリックする必要がある場合があります。

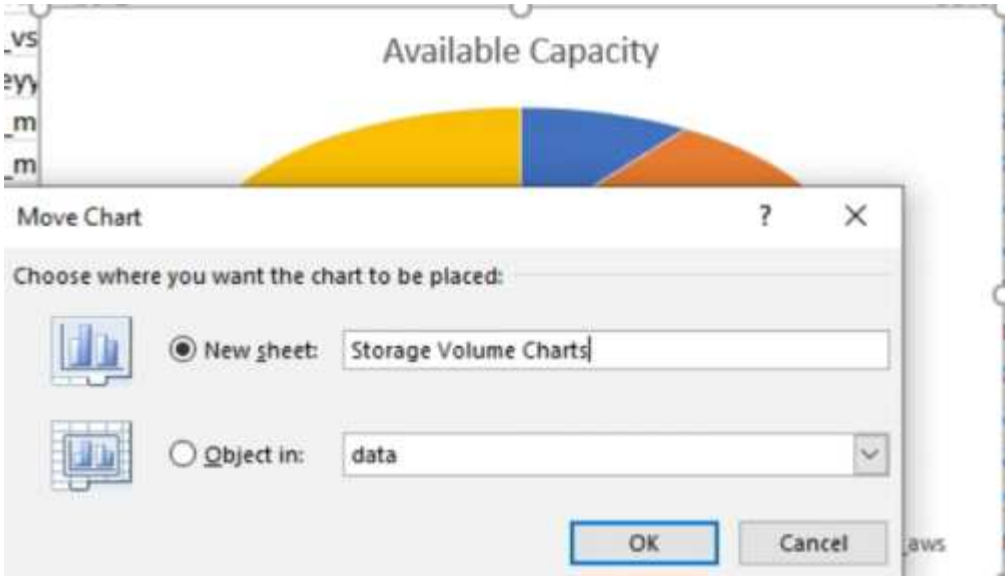
3. 必要に応じて、*編集を有効にする*をクリックしてください。
4. ダウンロードしたファイルをExcelで開きます。
5. `data`シートで、 `Volume`および `Available Data`%列で使用するデータを選択します。
6. 「挿入」メニューで、 `3-D piechart`.

使用可能なスペースが最も多いボリュームがグラフに表示されます。グラフがdataシートに表示されます。

ネットワーク設定によっては、列全体を選択したり、選択したデータ行が多すぎると、円グラフが読めなくなることがあります。このサンプルでは3-D円グラフを使用していますが、任意のグラフ タイプを使用できます。キャプチャするデータが適切に表示されるグラフを使用してください。

7. グラフのタイトルを*利用可能な容量*とします。
8. グラフを右クリックして、*Move Chart*を選択します。
9. *新規シート*を選択し、シート名を*Storage Volume Charts*にします。

infoシートとdataシートのあとに新しいシートが表示されることを確認してください。

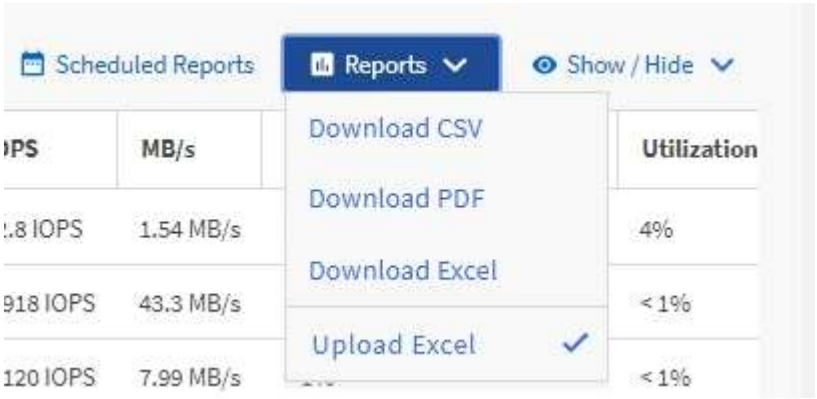


10. グラフを選択すると表示される「デザイン」メニューと「書式」メニューを使用すると、グラフの外観をカスタマイズできます。
11. 問題がなければ、変更したファイルを保存します。
12. Unified Managerで、レポート > *Excelファイルのアップロード*を選択します。

> Excelファイルをダウンロードしたときと同じビューが表示されていることを確認してください。

13. 変更したExcelファイルを選択します。
14. *Open*をクリックします。
15. 「送信」をクリックしてください。

レポート > **Excel**のアップロード メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。



16. *スケジュール済みレポート*をクリックします。
17. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
18. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

レポートの形式として*XLSX*を選択してください。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリュームの負荷を分散できます。

Active IQ Unified Manager で使用可能な IOPS が最も多いアグリゲートを表示するレポートを作成する

このレポートは、使用可能なIOPSが最も多く、新しいワークロードをプロビジョニング可能なアグリゲートをアグリゲート タイプ別に表示します。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

以下の手順に従って、「ヘルス：すべてのボリューム」ビューを開き、ビューをExcelでダウンロードし、空き容量のグラフを作成し、カスタマイズしたExcelファイルをアップロードして、最終レポートのスケジュールを設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. 「表示」ドロップダウンから「パフォーマンス：すべてのアグリゲート」を選択します。
3. *Show/Hide*を選択して `Available IOPS`列を表示し、 `Cluster FQDN, Inactive Data Reporting,`および `Threshold Policy`列を非表示にします。
4. `Available IOPS` および `Free Capacity` 列をドラッグして、 `Type` 列の横にドロップします。
5. カスタムビューに名前を付けて保存する `Available IOPS Per Aggr.`
6. レポート > *Excelをダウンロード*を選択します。



お使いのブラウザによっては、ファイルを保存するために「OK」をクリックする必要がある場合があります。

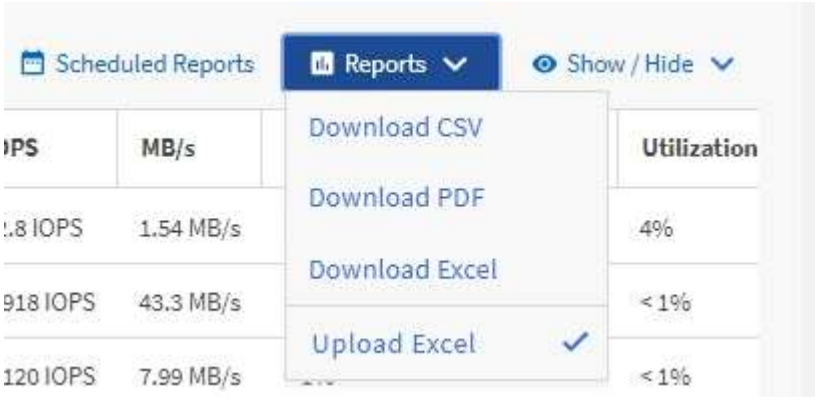
7. 必要に応じて、*編集を有効にする*をクリックしてください。

8. ダウンロードしたファイルをExcelで開きます。
9. dataシートの左上にある小さい三角形をクリックして、シート全体を選択します。
10. データ リボンで、 `Sort & Filter area.`から 並べ替え を選択します
11. 次の並べ替えレベルを設定します。
    a. *Sort by*を `Available IOPS`（IOPS）に、*Sort On*を `Cell Values,`に、*Order*を `Largest to Smallest.`に指定します。
    b. *レベルを追加*をクリックします。
    c. *Sort by*を `Type`、*Sort On*を `Cell Values,`、*Order*を `Z to A.`に指定します。
    d. *レベルを追加*をクリックします。
    e. *並べ替え*を `Free Capacity (GB),`、*並べ替えの基準*を `Cell Values,`、*順序*を `Largest to Smallest.`に指定します。
    f. *OK*をクリックします。
12. Excelファイルを保存して、閉じます。
13. Unified Managerで、レポート > *Excelファイルのアップロード*を選択します。

    Excelファイルをダウンロードしたときと同じビューが表示されていることを確認してください。

14. 変更したExcelファイル、この場合は `performance-aggregates-<date>.xlsx.`を選択します
15. *Open*をクリックします。
16. 「送信」をクリックしてください。

    レポート > **Excel**のアップロード メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。



17. *スケジュール済みレポート*をクリックします。
18. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
19. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    レポートの形式として*XLSX*を選択してください。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、使用可能なIOPSが最も多いアグリゲートに新しいワークロードをプロビジョニングできます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。